

福祉住環境コーディネーター について知っておこう

C H A P T E R 1

- 1▶ 福祉住環境コーディネーターってどんな職業？
- 2▶ 21世紀は福祉住環境コーディネーターの時代だ！
- 3▶ 福祉住環境コーディネーターはどんな人に向いてるの？

1

福祉住環境コーディネーターって、どんな職業？



福祉住環境コーディネーターは、高齢者や障害者のための住まい作り、改修の手伝いをする専門家

高齢者・障害者のために住環境のアドバイスを行う仕事

これは私の友人にまつわる実話です。

浩子さんは結婚式を挙げ、みんなに祝福されながら、念願のハワイにハネムーンに行きました。「きれいな海を君に見せてあげたい」という夫の提案に従い、2人はボートに乗りました。空は青一色。そして、さわやかな風、まぶしい太陽。

その時、悲劇が起こりました。大きな波とともに、ボートが大きく上下に揺れたのです。それに伴い、浩子さんの体も座席を舞い上がり、背中をシートで強打しました。気がついてみると、そこは病院でした。浩子さんは一瞬、事態を理解することができませんでした。夫の顔を見て安心しましたが、寝返りを打とうとしても打てないことがわかりました。1週間後、浩子さんは脊髄損傷によって、一生車いす生活になることを知りました。

本来は、新築マンションで新婚生活がスタートするはずでしたが、マンションはあまりにも段差が多く、廊下の幅も狭いため、車いすでの生活はムリです。購入を断念せざるを得ませんでした。

浩子さんは、「車いすに適した住宅とはどのようなものなんだろう」と真剣に考えました。

まず、担当医に聞いてみたところ、「専門外なので」との返事です。また、知り合いの工務店に聞いてみても、「どこをどのように造ってくれ、と指示されればそのように造るが、抽象的に“車いすの生活に適應できる家”“脊髄損傷”と言われてもできない」と言われました。さらに、福祉の専門家に聞くと、福祉機器自体のこと

福祉住環境コーディネーターとは？

福祉住環境コーディネーターの役割

高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するアドバイザー

医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけ、各種の専門家と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示する。また福祉用具や諸施策情報などについてもアドバイスする。

福祉住環境コーディネーターの主な仕事

- ・介護保険制度下での住宅改修に係わるケアマネジャーとの連携
- ・福祉施策、福祉・保険サービスなどの情報提供
- ・福祉用具、介護用品から家具までの選択と利用法のアドバイス
- ・バリアフリー住宅への新築、建て替え、リフォームにおけるコーディネート

出所:東京商工会議所のホームページより



福祉住環境コーディネーターとはどんな仕事なのか、理解することから始めよう

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

はよく知っていましたが、家をどのように改修すればよいかという知識は持ち合わせていませんでした。

最後に、近くの役所に聞いてみたところ、ようやく高齢者や障害者のために家造り・改修のアドバイスをする専門家として福祉住環境コーディネーターという職種があることがわかりました。

浩子さんは、役所に紹介してもらった福祉住環境コーディネーターとともに、現在、新築プランをいろいろ検討中です。

福祉住環境コーディネーターが創設された理由は？

高齢者・障害者のために家を改修するには、医療・建築・福祉・行政等、幅広い知識が必要となります。しかし、これらの知識を一般的に持っている人はほとんどいませんでした。そこで創設されたのが、福祉住環境コーディネーターという資格です。

たとえ、それぞれの専門家が集まって相談しても、お互いの専門分野への基礎的素養がなければ、それは英語と中国語と日本語とドイツ語を話す人が4人集まって、議論するに等しいことです。

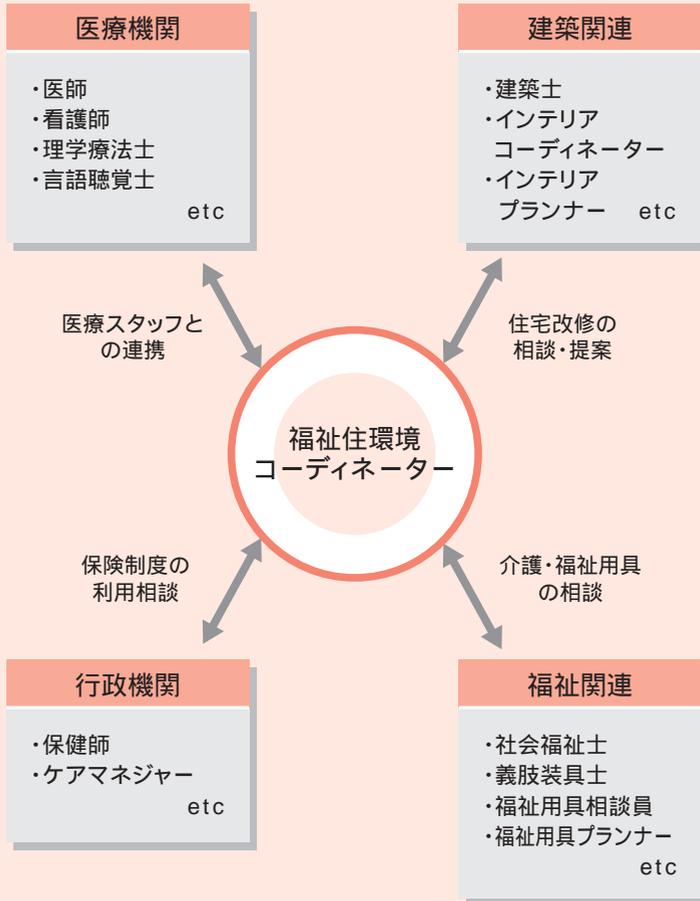
福祉住環境コーディネーターは、それぞれの専門家から情報収集し、意見を調整しながら、それを高齢者・障害者のための住環境整備に役立てます。このように意見を調整する、ということで、「コーディネーター」(調整する人)という名がつけられたのです。

とはいえ、福祉住環境コーディネーター自体は、医療・建築・福祉・行政の専門家ではありません。例えば、ある高齢者について医師に意見を求めた場合に、医師の言葉が適切に理解できればよいのです。医師と同等の医学知識が要求されるものではないことを理解しておいてください。

合格
のために！

医療・福祉・建築・行政などの知識を高齢者・障害者のための家造りに活かして活躍できる仕事だと心得よう

福祉住環境コーディネーターの仕事の範囲は？



医療・福祉・建築・行政などの幅広い知識と情報を集めて仕事するのが特徴

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

第1章 福祉住環境コーディネーターについて知っておこう

2

21世紀は福祉住環境 コーディネーターの時代だ!



2050年には3人に1人が高齢者に。高齢者のための住環境整備は必須になり、活躍の場は大きく広がるはず

今後、住環境整備のニーズはますます増える!

2050年には、3人に1人が高齢者になります。このような超高齢社会においては、制度やシステム自体を高齢者に合わせる必要があります。家の構造が高齢者に合わないものであれば、誰かがサポート（介護）しなければなりません、これは実に大変なことです。社会全体からみても、それは膨大なコストになります。

しかし、はじめから高齢者・障害者に合わせた家があれば、高齢者・障害者本人が自立して生活することも可能です。もちろん介護者の負担も大幅に減少します。つまり、こうした家を建てたり改修することは、本人・家族の幸せのみならず、社会全体のコストの削減にもつながるのです。

また、もう少し視野を広げれば、ただ単に家を高齢者・障害者向けにするだけでは足りないことに気づきます。

例えば、駅などの交通機関も高齢者に対応していなければなりませんし、いろいろな施設が自宅から近いところにあることも必要です。さらに、何か困った時に、すぐにサポートしてもらえる専門家が身近にいることも必要です。

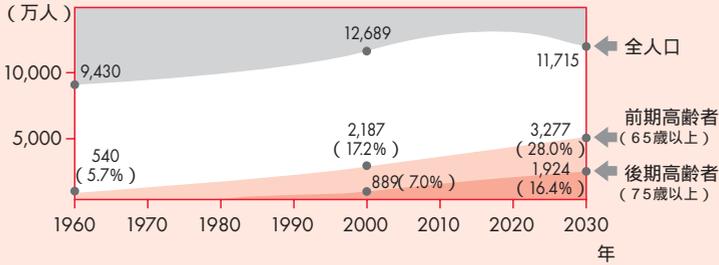
超高齢社会に向けて、われわれがやらなければならないこと的第一步は住環境整備です。21世紀は福祉住環境コーディネーターの時代だといえるのです。

合格
のために!

21世紀は福祉住環境コーディネーターの時代。超高齢社会に向けて、活躍の場は広がっていく

福祉住環境コーディネーターは将来有望!

高齢化の進行状況



資料: 1995年以前は総務庁「国勢調査」、2000年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」1997.1.推計



2050年には3人に1人が高齢者に!
住環境整備へのニーズはますます大きくなっていく



福祉住環境コーディネーターは将来有望な資格。
あなたも福祉住環境コーディネーターになろう!

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

第1章 福祉住環境コーディネーターについて知っておこう

3

福祉住環境コーディネーター はどんな人に向いてるの？



建築関係・福祉関係・医療関係の人から高齢者・障害者自身、介護者まで幅広い人に役立つ資格

住宅メーカー・工務店に勤務している人

福祉住環境コーディネーターに挑戦する人が一番多いのは、建築関係の仕事をしている人です。

これまで高齢者や障害者向け住宅のニーズはあまり大きくありませんでしたが、最近では、バリアフリー住宅が標準になってきています。今後、この分野についての知識は不可欠になるでしょう。

とはいえ、住宅メーカーの人でも、バリアフリーをきちんと理解しているのは本当に少数です。バリアフリーとは、段差がなく、手すりがあり、車いすさえ通ることができればいいと誤解している人もたくさんいます。大切なことは一人ひとりに合った住宅を提供することです。例えば「車いすの場合、スイッチの位置は床からどれぐらいが適切か」ということも含めてのバリアフリーなのです。

また、お客様にとっても、「福祉住環境コーディネーター」という専門家に「家造り」を指南してもらえれば、安心です。

私も、10年ほど前に家を建てましたが、階段の手すりなどはお金がかかるので最小限にしました。いまにして思えば、もう少しバリアフリー仕様にしておけばよかったと後悔しています。

何か問題が生じてから改修をするのではなく、新築する時に、できるだけのことをしておくよう、お客様に自信を持って説明できるようにしたいものです。

福祉関係の職業に就いている人

福祉住環境コーディネーターを受験する人が2番目に多いのが、

福祉住環境コーディネーターに向いている人は？

1

住宅メーカー、工務店に勤務している人

→家を建てた後に改修するより、新築の時からバリアフリーの設計を

2

福祉関係の職業に就いている人

→ 仕事上のスキルが確実にアップするのでぜひ挑戦してみよう

3

医療機関に勤めている人

→ 在宅医療やリハビリが必要な人に住環境整備のアドバイスを

4

高齢者・障害者自身やその家族

→ 実際に生活する人なら細かいところまで目が行き届くはず

など.....

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

第1章 福祉住環境コーディネーターについて知っておこう

福祉関係の職業に就いている人です。

福祉関係、特にホームヘルパーやケアマネジャーなどは、「もうすこし家の構造が介護向きだったら」と思うことがしばしばあります。しかし、そうは思っても、具体的にどこをどうすればよいのか、わからないという人が多いようです。

福祉住環境コーディネーターの勉強をすれば、医療・建築に関する知識を得ることができるので、それぞれの疾病や状態に応じた住環境整備のアドバイスもできるようになります。

また、介護保険で利用できる在宅サービスには住環境整備に関するものがありますが、人的介護に関するプランづくりに比べ、住環境に関してアドバイスできる人材は不足しています。

福祉関係の人は確実にスキルアップすることが可能な資格ですから、ぜひ、挑戦してほしいと思います。

医療機関に勤めている人

いままでの医療機関なら、単に医療だけをしていれば足りました。しかし、これからの医療機関に求められるのは、医療行為のほか、精神的なケア、在宅のケアも含めたトータルなケアです。

また、リハビリが必要な人、在宅医療が必要な人に退院後の住環境整備をアドバイスするためにも、ぜひ、福祉住環境コーディネーターの勉強をしてほしいと思います。

高齢者・障害者自身

福祉住環境コーディネーター検定試験の会場に行くと、多くの高齢者・障害者が受験していることがわかります。以前、ある障害者の人に「どうして福祉住環境コーディネーターの勉強を始めたのですか」と尋ねたところ、「障害者のことは障害者が一番よくわかっている。自分自身で自分の住環境を整備したいから」という答えが